

# 「小児期からの成人病予防に関する総合研究」の総括

大国 真彦<sup>1</sup>, 日比 逸郎<sup>2</sup>, 久道 茂<sup>3</sup>

**要約：**小児期からの成人病予防を行うことが、わが国における現在増加しつつある成人病の死亡率や罹患率を低下させ、かつクオリティオブライフの向上に貢献するのかどうかを知る一つの重要な方法として、小児期早期からの長期に亘る前方視的研究であるコーホートの研究手段が考えられる。コーホートの研究を行うにあたり、必要とされる具体的内容や派生すると予想される諸問題に関して検討した。

**見出し語：**インフォームド・コンセント, 説明文書, 介入研究, 小児成人病, コーホート研究

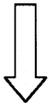
大国は、協議会において本研究の方向性について討議し、コーホート研究あるいは介入研究を行うに際して必要とされる準備的な諸問題の解決について、以下の項目における問題点を明らかにした。1) アンケートの依頼文と処理様式, 2) 家族歴の調査票について, 3) 食事調査票・生活調査票について, 4) 運動面の評価法について, 5) 介入方法について。

久道は、小児期からの成人病予防に関する介入研究についての考え方とその具体的方法について

研究し介入研究の目的は、幼児期のライフスタイル, 成人病のリスクの有無, 及びある種の介入が、成人期成人病の罹患にいかなる影響があるかを知ることであると限定し、対照群の設定, 追跡方法, 研究体制に関して意見を述べた。

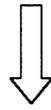
日比は、小児成人病健診に際してのインフォームド・コンセントにつき、対象者の人権の保護に関して講ずべき最善の措置に関する方法として、健診対象小児の保護者に対する文書を策定した。

- 
1. 日本大学医学部小児科学教室 (Dept. of Pediatrics, Nihon University School of Medicine)
  2. 国立小児病院・内分泌代謝科 (Division of Endocrinology & Metabolism, National Children's Hospital)
  3. 東北大学医学部公衆衛生学教室 (Dept. of Public Health, Tohoku University School of Medicine)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児期からの成人病予防を行うことが,わが国における現在増加しつつある成人病の死亡率や罹患率を低下させ,かつクオリティーオブライフの向上に貢献するのかどうかを知る一つの重要な方法として,小児期早期からの長期に亘る前方視的研究であるコーホートの研究手段が考えられる。コーホートの研究を行うにあたり,必要とされる具体的内容や派生すると予想される諸問題に関して検討した。